

# 名護市長選挙支援報告記

吹田民主商工会常務理事 西尾 栄一

12月後半の9日間の支援に続き1月25日から2月3日までの10日間、名護市長選挙の支援に行ってきました。同時期に、岡崎会長代行が3日間、永田協同組合理事長夫妻が4日間支援に出向きました。選挙結果は約3500票差で稲嶺ススムさんは惜敗しました。大事な、大事な選挙なのに打ち勝つことができず、悔しくて、悔しくて、本当に残念でなりません。

## 選挙なのに「選挙にしない作戦」を徹底

相手側は選挙なのに「選挙にしない作戦」をとっていました。まずは、最大の争点である辺野古新基地問題に対する態度を全く明らかにしませんでした。応援に来る国会議員にも「辺野古の『へ』の字も言わない」と周知徹底されていたようです。そのため、最大の争点が置き去りにされたまま選挙が終わりました。

第2は、ウソの宣伝をどんどん広めていったことです。「稲嶺不況」「借金を増やした」「税金が高くなった」「日ハムは名護に戻ってこない」など、調べればわかるウソを平気で宣伝してきました。「ウソも100回言えば本当に聞こえる」の手法そのままです。稲嶺さんが、米軍再編交付金に頼らなくても、前市政よりも95億円も予算を増やし、それを全て住民生活向上のために使ってきた実績を強調しても、このウソの宣伝を打ち消すことはできませんでした。第3は、相手候補は8回ほどあった公開討論会のすべてを完全に無視したことです。住民の前で候補者同士が自らの政策を語り、相互に議論することこそ選挙です。新基地問題に対する態度やウソの宣伝を、討論会に参加した市民の前で明らかにされるのを嫌がった意図的な作戦でした。

選挙は民主主義の土台です。事実に基づき、お互いの政策を、住民の前で表明しあうものです。政策を有権者に示し、その判断を投票行動で示していただくものです。それなのに、新基地問題は触れない。ウソをつき通す。公開討論会には出てこない。それでも相手方が勝ったのです。これでは民主主義の土台が崩れてしまいます。

## 名護市民の選挙なのに官邸が前面の選挙

### 「期日前投票で決着を付ける」をそのまま実行

とにかく異様な選挙でした。第1の異様さは、一地方の選挙なのに菅官房長官や二階幹事長が何度も名護入りし、100名を超える自民党議員が直接企業や各種団体を訪問して締め付けたことです。稲嶺支持とわかっている沖縄県連の仲本会長のところにも行政書士会の名簿を見て他市の市議会議員が訪問してきました。私も、保育所にビラを配布しているときに、小淵優子衆議院議員に出会いました。国会議員の大半は街頭には立ちません。名護市民から見えないところで企業や団体に圧力をかけ続けました。

第2は公明党が相手側の支持を表明したことです。公明党はこの間新基地建設に反対の態度をとっていたはずですが。そのため、今までは自主投票でした。それが、今回は、本土からも多数の学会員が集められ、原田会長が先頭に立

って相手候補を支援しました。創価学会の会館には毎日数百台の車が入り出したそうです。地縁、血縁を頼って徹底して訪問活動を幾度も幾度も繰り返しました。高校の同窓生だというだけで親しくもなかった人が40数年ぶりに1日に2回も訪問してきたとの話もありました。どうやって住所や名前を調べたのでしょうか。

第3のお金です。ある店に毎日のように若者を集めて飲み食いさせている。(民商の若い役員が顔を出したら、「お前は帰れ」と言われたそうです)ある部落の役員に20万円が渡された。期日前投票の帰りにスーパーによると、「何でも好きなものを買え。支払いは自分がするから」と言われたなど、お金にまつわる話題が何度も出てきました。

第4は期日前投票への大量動員です。初日から会場はたくさん名護市民で溢れていました。駐車場に向かう道路は渋滞していました。企業や各種団体から言われてきている人が大半です。民商の会員さんも、心の中では稲嶺支持だけど、親会社からの圧力がすごくて相手候補に投票した人もいました。出口調査には、正直に答えてはいけないとの指示も出ていたそうです。情報のかく乱です。官邸はここまでやっているわけです。期日前投票は全有権者の4割を超えたそうだから、その凄まじさがわかります。権力とお金で票を分捕る選挙が行われました。

## それでも知事権限と名護市民の団結あれば

### 工事は止められる

テレビで見ると大浦湾の工事は進んでいるかのように見えるかもしれませんが、まだ護岸工事の4%だけです。海そのものの埋め立てはできていません。知事と市長の権限が及ぶところは進められないからです。そのことを名護市民に周知できませんでした。反対する方々に展望を示すことができなかつたことが、基地反対の人でも相手方に投票した要因ではないかと思われまます。

それでも新基地建設の反対は65%以上あります。新市長も選挙結果が「辺野古容認の民意ではない」と認めています。学会本部の態度に納得できず稲嶺支持で行動した学会員もいました。名護市民は20年以上にわたり我慢強く、粘り強く、新基地反対の運動を続けてきました。今回の選挙は負けましたが、闘いはこれからも続きます。まもなく、遺跡調査も始まります。その状況によっては、工事が止まる可能性もあります。

今年沖縄は選挙の年です。3月には石垣市長選挙、9月は名護市議会議員選挙、そして、11月は県知事選挙と那覇市長選挙があります。新基地建設の是非を問う県民投票も議論されています。これからも沖縄県民に連帯し、闘いを支援していきましょう。今回の選挙応援に当たり募金もいただきました。ありがとうございました。心からお礼申し上げます。



会費集金は会員の心をあしめる活動です 毎月10日までには集めましよう  
商工新聞は経営のヒント・ハウ・ハウの知恵がいっぱい 毎週必ず届けましよう